



国経研だより No.77

国際経営研究所

〒220-8739 神奈川県横浜市西区みなとみらい 4-5-3

みなとみらいキャンパス 11007

TEL 045-664-3710(内線 4100)

今号の内容

P.1-2 What It's All About in the End – Wrocław University of Economics and Business / Charles Hirst

P.3 第18回ビジネスプランコンテスト開催報告 / 田中 則仁

P.4 第19回インターゼミナール大会の開催について / 高城 玲



What It's All About in the End – Wrocław University of Economics and Business

Charles Hirst

From June 26th – 30th, I visited Wrocław University of Economics and Business as part of the Erasmus + Mobility Training Program. The university is located in Wrocław, Poland. Wrocław is a city of 674,000 people located in the southwest of the country. The university was established as a private business school in 1947 and is now one of the ten public universities in the city.



Wrocław City Market

Iwona Przylecka, Head of the International Mobility Section and Erasmus Institutional Coordinator, was my main connection during my stay. I wish to give many thanks to Iwona and all the staff in the international affairs section at Kanagawa University, especially Hiromi Nakakura, for coordinating my visit on very short notice.



Wrocław University of Economics and Business

My main goal during my visit was to meet with various administrators, professors, and students to see how people at our schools can best work together going forward. On the first morning, Maria Thomson and Joanna Tyburczy gave me a guided tour of the university. In the afternoon, I met



Wrocław City Hall

with the chief librarians, Dawid Kosciwicz and Kinga Zmigrodzka-

ryszyk to share best practices in managing research materials and making the library a place where students want to hang out.



Maria Thomson, Charles Hirst, Iwona Przylecka and Joanna Tyburczy

The following day, I met with accounting professor, Anna H. Jankowiak. We discussed her upcoming visit to our campus and how best to approach professors at Kanagawa University to do joint research.

In the afternoon, I delivered an academic presentation sharing the results of my joint research with Professor Tomoko Kawachi. Professor Kawachi and I are researching best practices to improve student outcomes in the IBC Program.

The following day I met with Professor Boguslawa Drelich-Skulska, Vice-Rector for Accreditation and International Cooperation. We exchanged gifts between our universities and discussed ways we could strengthen the relationship between our schools.

I also wish to express my thanks to Professor Anna H. Jankowiak, the Director of International Cooperation Center and Professor Tomasz

Syczkowski – European Credit Transfer System Coordinator and Student Mobility Coordinator, who took the time to meet with me and share ideas about how our schools can best work together.



Gnome at Wroclaw University of Economics and Business



Professor Boguslawa Drelich-Skulska and Charles Hirst

The most important thing I am happy to report is that this semester, we have a Kanagawa University student studying at Wroclaw University of Economics and Business. We also have a Ukrainian Wroclaw University of Economics and Business student who just began his studies with us.



Recent Graduates With the Gnome at Wroclaw University of Economics and Business

That is what it's all about in the end!

(所員/チャールズ・ハースト)

第 18 回ビジネスプランコンテスト開催報告

経営学部 田中則仁

2023年11月4日(土曜日)午前10時から、神奈川大学みなとみらいキャンパス1階、米田吉盛記念ホールで、第18回神奈川大学経営学部ビジネスプランコンテストが実施されました。今回も平塚信用金庫のご後援を賜り、理事長賞を贈呈して頂きました。毎回のことですが、平塚信用金庫の幹部、中堅の社員4名の皆様にお越し頂き、2名には審査員として参加して頂きました。日頃から与信業務に携わられている専門家の知見で、厳しくも暖かい質問とご指摘を頂きました。心から感謝申し上げます。



今回も経営学部3年生の学生12グループが日頃の成果を発表しました。前期の連休明け頃から、各グループは事業アイデアを出し合い、それを事業計画に仕上げ、さらに財務計画を添えて発表していました。審査員の採点では、事業内容の評価、すなわち新規性や独創性、社会的意義性、ニーズ把握も重要な確認点です。

さらにビジネスプランであるからには、経営能力、実現可能性も重要です。大学生の発表では、とかく突飛なアイデアが評価されがちです。しかし、絵空事では思いつきに過ぎません。地に足の着いた実現可能性も重要な評価点です。事前調査はもとより、関係する法規の確認、業界企業への聞き取りなど、実効性の確保も大きな評価ポイントでした。



またプレゼンテーションでの表現力、発言力、質疑応答の的確性や説得力も、将来実社会で数多くのプレゼンテーションをすることになる学生達には、是非とも培って欲しい能力です。自分たちで考え、論理構成したビジネスプランを、パワーポイント資料に基づいて、判りやすく正確に発信する能力は、これからの社会人基礎力として大いに資することでしょう。

今回も出場12グループの内、最優秀賞1件、平塚信用金庫理事長賞1件、優秀賞1件、奨励賞2件でした。半数以上のグループは賞に及ばなかったこととなります。しかし、この評価は当日の15分間の発表と10分間の質疑応答に対する評価です。賞に輝いたグループは、「勝って兜の緒を締めよ」の気持ちで。賞に至らなかったグループは、社会人になった時には捲土重来を期して、次への挑戦をして欲しいものです。学生の皆さんの未来は無限大です。ご苦労様でした。



(所員/たなか・のりひと)

第 19 回インターゼミナール大会の開催について

高城 玲

2023 年 11 月 11 日（土）、経営学部 3 年次ゼミの 36 チーム（151 名）による第 19 回経営学部インターゼミナール大会がみなとみらいキャンパスの計 8 会場で行われた。

本大会は、ひらつかキャンパス時代からの長い歴史を有し、参加学生数からしても経営学部 3 年次の約 3 分の 1 弱の学生が参加する大きなイベントでもある。ビジネスプランコンテストや外国語スピーチ大会と並んで経営学部の三大イベントのひとつとも位置づけられるだろう。

こうした背景をもつインターゼミナール大会が、2020～21 年度の 2 年間は新型コロナウイルスの蔓延により、Zoom オンラインでの開催となった。対面開催が再度可能となったのは昨年度の第 18 回大会からである。この間、キャンパス移転もあり、開催方法をいくつか変更することとなった。

主な変更点は以下の 2 点である。まず第 1 に審査員の変更である。以前は発表がおこなわれる各教室で 2 名以上の教員に審査員をつとめていただいていた。それを各教室教員 1 名の審査員に加えて、発表するチームの学生代表も他チームへの審査を行い、その平均点と教員の審査点数を合算することとした。これによって、質疑応答を含めて学生がより能動的に大会に参画することを意図した。第 2 に、発表のカテゴリーを問題探求型と解決策提案型の大きく 2 つに分け、参加申込みの際に登録を求め教室を分けた。いわゆる解決策提案を主目的とする発表と、問いを立ててその探求を主とする発表とに大きく分類することで、教室ごとにばらつきがないよう配慮した。

右に掲載する一覧は、今年度参加した 36 チームの発表タイトルと表彰結果をまとめたものである。

現在の経営学部学生が関心あるテーマの特徴が見て取れるだろう。



来年度のインターゼミナール大会は、ちょうど第 20 回目の節目を迎える。例年、表彰式では結果が発表されると涙を流して喜ぶチームと同時に悔しがる学生の双方が見受けられる。それだけ自らを賭けて取り組んだことの証しとも言えるだろう。わずか 10 分ずつの発表と質疑応答ではあるが、チームでひとつの課題に向けて精力を傾ける数少ない研究発表の機会として、本大会が今後も展開していくことを願いたい。

（所員/たかぎ・りょう）

グループ 講堂	賞	発表タイトル
A 5006	奨励賞	夜職卒と企業の人材不足を救う！人材派遣事業
		神奈川大学MMC エスカレーター改革～当たり前を改める～
		日本の大学におけるゴミ回収の効率化と環境問題に関する貢献
		親のスポーツ観が子供に及ぼす影響
B 5007	奨励賞	インソールが与える効果と疲労軽減について
		次世代に向けた生乳のために・・・
		健康寿命を伸ばすために
	優秀賞	お酒との上手な付き合い方
C 5008		「小学生へ向けた新しい食育の形」
		カフェインとの向き合い方
		神大アスリートマネジメント
	最優秀賞	男女共用トイレ
D 6006	奨励賞	ヘルスクエアがもたらす明るいミライ～メンタルヘルスを身近なものに～
	奨励賞	フードロスを考える
	優秀賞	空き家問題と活用法
		ArTt驚く地域活性化マーケティング
E 6007	奨励賞	いいなびプロジェクト
		次世代をメイクする
		プレゼントの新しい選択肢
	奨励賞	健康経営で変わるあなたの睡眠
F 6008	奨励賞	犬や猫の殺処分減らす為には～猫との共存～
		物語性のあるキャッチコピーの効果
	奨励賞	観光公害～旅行者がもたらす影～
		映像における1人称と3人称の内容理解度及び没入感の程度の比較研究
G 6009	奨励賞	日本人の時間感覚～外国人の時間の考えと比較して～
		創作表現と心的イメージの関連性についての研究
		アニメソングの感情効果～知識の存在が鍵？～
	奨励賞	世界中の大麻合法化または非合法化について
H 6010	奨励賞	食文化から生まれる先入観の実態～日本における東南アジアの食～
	奨励賞	勝ち飯
	奨励賞	漫画から映画へ～実写化成功の秘密～
	優秀賞	アイドルオタクと幸福度の関連性
	奨励賞	ヤングケアラーについて
	奨励賞	あなたは何しに占いへ～日本における位置付け～
	最優秀賞	過去から紐解く『人間関係の悩み』～原因は内向的思考にあった！？～
		美容整形手術：経験者に聞いた動機と結果